

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2015回★ 大船山 653.1m	11/3(祝) AM7:30 壬生交通局	和田良一(692)	京都-亀岡-(R372)- 福住-曾地口-十倉
場合により大野山(帰途)。マイカー登山につき希望者は担当者まで申込んでください。			
第2016回★ 天王山 (清掃登山)	11/6(日) AM9:00 阪急大山崎駅前	奥村弘信 (791-7450)	小雨決行。 手袋、ゴミ袋等は連盟で用意します。
恒例の連盟行事として、今年も京交山岳部は天王山一帯の清掃登山を行います。 皆様のご協力をお願いします。			
第2000回 山岳部45周年記念登山=台高山脈中部			
月 日	11月19日(土)~20日(日)		
集 合	19日(土)7:00 竹田駅西口		
コ ー ス	19日 京都=大台ヶ原散策=和佐又スキー場幕営~和佐又山周辺 20日 和佐又スキー場=八幡平~明神滝~隠平(南朝遺跡)~薫峰~隠平~八幡平=佐古温泉=京都		
宿 泊	和佐又スキー場(幕営主体) ヒュッテ宿泊も可 上北山温泉入浴可		
申込締切	11月10日		
装 備	幕営1泊山行程度(山行中は日帰り装備) 昼食2食と予備食(各自持参のこと) 夕食1, 朝食1は共同準備		
地 図	大台ヶ原, 大和柏木, 大豆生(1/2.5万)		
交 通	マイクロバス予定		
担 当	鷺見(689), 吉田(654), 井戸(810)		
かつては台高山脈は京交の山とまで言われていましたが、最近では当部からこの山域に入る計画も少なくなっています、久しぶりに台高の息吹きに触れ、諸先輩方の足跡を偲びたいと思います。山々の紅葉も真っ盛りで静かな山行が楽しめることでしょう。 宿泊は和佐又スキー場での幕営を主としますが、和佐又ヒュッテでの宿泊も可能ですので、希望の人は申し出てください。			
今月の集会		企画運営委員会	
日 時	11月10日(木) PM6:30	日 時	11月21日(月) PM6:30
場 所	厚生会館 4F 大教室	場 所	厚生会館 4F 大教室



## 紅葉

岡田茂久

「わが触れてきし 山の木や秋深し」 - 中村汀女 -

10月の3連休は紅葉の木曾の山を楽しむべく出かけたが、今年は夏の異常気象のせいか紅葉は、今一つ早いかなというところであった。天候には恵まれて、すすきの白い穂と薄紅葉に木曾の山々の風情は十分に満喫することができた。薄紅葉、古書に「紅葉は、なほ緑なるにただひとり今染めつらんとおぼしくて、つやつやと匂へる二藍の色めでたし」、すっかり山々が紅葉しきったよりも、うっすら色つき始めたところに風情があると歳時記にもある。

紅葉といっても色々で、「もみじ」は紅葉した木々の一般名称であるとともに、楓の類は特に紅葉が美しいため「もみじ」といえば普通は楓の類をさす。楓の類は一般に手の平状に裂状した葉を持ち、古くは蛙の手に似るところから「かえるで」といった。万葉集の相聞歌に「吾が屋戸に黄変が鶏冠木見のごとに妹を懸けつつ恋ひぬ日はなし」 - 大伴田村大娘 - をみる。「黄変ず鶏冠木」は「もみずかえるで」と読むと解説書にあった。

楓類は種類が多く、普通一つ葉から三葉のものを「かえで」、五葉から七葉ぐらいからは「もみじ」というらしい。種類によっては九葉から十一葉のものもある。色にしても黄色から朱色に真紅と様々で、黄葉も「こうよう」と読む。「もみじ」は高尾紅葉が有名で、赤紫色を呈するものをちりめん楓とも「きれにしき」とも言い、高尾紅葉の亜種である。

春の花見に対し、秋には紅葉狩り、観楓といって「かえで」を鑑賞するのが、古来からの日本人の慣習で、紅葉の名所は古来、山城の高尾と百人一首の「嵐吹く三室の山の紅葉は龍田の川のにしきなりけり」にみる大和の龍田川であった。奥入瀬渓谷や山々の雑木紅葉を鑑賞の対象とするのは近代に至ってからのことである。

楓紅葉の他にも美しく紅葉するものを特に名木紅葉というが、それには漆（うるし）紅葉、榎（はぜ）紅葉、ななかまど紅葉、檜（なら）紅葉、錦木（にしきぎ）紅葉等があり、名木黄葉に銀杏（いちろう）黄葉、柏（かしわ）黄葉等がある。くぬぎ、ぶな等は雑木紅葉といい黄葉、褐色、銅色を呈するものが多い。桜紅葉、梅紅葉、柿紅葉等もあるが、これらは他の木に先だって紅葉し、他の木が紅葉する時期には既に葉は散り始め、虫食いの葉が梢に残っていたりする。華やかな紅葉と比べ「ものの哀れ」を感じさせ、これがまた風流人には風情があるらしい。

山屋には「草紅葉」にも大いに安らぎを感じるものがある。

「秋の夕日に照る山紅葉………」、陽の光に照り映えた紅葉の様子を「照葉紅葉」という。

その昔、蛭ヶ野高原から白川郷を経て天生峠に遊んだとき、落日前の逆光に映え、鬼女が舞い狂う「紅葉狩」の舞台もかくや、美しくも恐ろしいほど凄絶な「照葉紅葉」に、「高野聖」をも惑わす天生峠の魔性の物の怪の気配を感じ、思わず山道で立ち尽くしてしまった思い出がある。

【第2010回例会】

## 無雪期指導員研修会および検定会

山岡 昭弘

9月10日（土）～11日（日）に御在所岳藤内壁一帯で行われた「無雪期指導員研修会および検定会」の報告をいたします。

京交からは、大倉さん、方山さん、西尾さん、そして私の4名が参加し、大倉さんの車で9日夜に京都を出発し、鈴鹿、湯の山温泉経由で蒼滝まで行き、ヘッドライトの明かりで身仕度を整え、裏登山道を藤内小屋へと向かいました。小屋に挨拶を済ませ、小屋裏の空地にテントを張り、やっとひとごちついたのは午前0時前でした。アルコールを少々嗜み、明日に備えて、早々に床に就きました。

○9月10日

午前6時に起床し、朝食の後、出発の準備を行ないました。

午前7時過ぎから、続々と参加者が集まりだし、午前7時30分過ぎには、小屋前広場が参加者でいっぱいとなりました。理事長、検定委員長の開会の挨拶の後、本日の予定発表があり、大倉さんは研修班に、そして、C級合格したての方山さん、西尾さん、私は、検定の生徒役兼アシストということで、検定班となりました。午前8時過ぎ、研修班は一壁へ、検定班は、検定員、受検者、生徒役の3人1組で、それぞれ、前尾根に向けて出発しました。

私の組の受検者は、私の母と同じ生まれ年のMさん。去年はMさんと同じ立場であった私の姿をMさんにダブらせながら、この緊張をできるだけ解きほぐしてあげようと、心の中に決めました。でも私は岩登りが不得意、おまけに不慣れときているので、緊張を解きほぐすまではいかなかったみたい……。おまけに、P6付近で出会った親子4人連れ（お父さんがザイルを3本垂らしながらトップで登り、後から子供が1人ずつセカンドとして登っていた。）のお父さんの子供に対する、

「かけ声は？」「早く登れ、！」「……………」

という罵声（失礼）いや声援を聞いてその迫力、圧倒され、Mさん、そしてMさん以上に私までもが緊張、萎縮してしまい、私は絶不調（岩登りの時はいつもかな）に、その影響からか、Mさんも、いつもの実力を出し切れなかったみたいでした。

私の組は、先行パーティーの時間待ち等で検定がはかどらず、小屋に戻ったのは、辺りも暗くなった午後7時頃でした。

指導員として、相手を技術的に指導できる力を持つことも大切ですが、いかなる状況においても平素の自分を失わず、相手の持っている力を最大限に発揮できる雰囲気を作り出し、保てる力も必要であることを実感させられた1日でした。（Mさんには悪い事をしたかな？）

テントでは、夕食であるジンギスカンを囲んで宴会中。私もジンギスカン、アルコールをいた

だき、早々に床に就きました。

○9月11日

昨日と同様、午前6時に起床し、朝食の後、テント内を少しかたづけ、出発準備を行ないました。

本日の予定は、一日研修会ということで、大倉さんと別れて私たち3人は堤さんの班へと入りました。そして午前8時前に小屋を出発しました。

今日は登攀者が多いため、私たちの班は、まず、テスト岩で、フットホールド、トラバース、登り方、体重移動、足の踏み換え等の講習および練習を行いました。次に、P7右横の通称蛇の皮(?)に移動して登攀の練習を行い、昼食、休憩の後、午後からは同じ場所でユマールを用いての登攀の講習および練習を行いました。

午後からは雨がパラつきはじめ、雨がひどくならないうちに小屋へ戻ったのは午後4時前でした。

今日は、岩場での足の踏み換え、ユマールによる登攀等、私にとって初めての技術を講習していただき、このような技術を実戦でスムーズに生かせるよう練習を積み重ねねばならないと感じました。

小屋前にて、理事長、検定委員長の閉会の挨拶、参加者全員での記念写真撮影の後、午後4時30分、全日程を終了しました。

【参加者】 大倉寛治郎、方山宗子、西尾直樹、山岡昭弘

【第2011回例会】

大峰

大普賢岳，国見岳，七曜岳

山元誠一

大峰山系に入るのは、山上ガ岳、弥山について3度目である。

今回の大普賢岳は、台風一過の好天にも恵まれ、また、ルートもバリエーションに富んでおり、秋の静かな山を楽しむことができた。

地下鉄竹田駅を12時に出発し、京奈和自動車道、国道169号を経由し、新伯母峯トンネルを抜けると、右手に和佐又山ヒュッテへの分かれ道が見える。ヒュッテへの道は、急カーブと登りの連続であり、さらに、昨日の台風の置土産か大きな岩がころがり、一部分では、舗装が陥没していた。

国道 169 号との分かれから 10 分余りで、今日の宿舎和佐又山ヒュッテに到着。(16:20 着)  
500 人程度は宿泊が可能というヒュッテは、大きく、また風呂もあるということで、宿泊手続きを済ませると、早速、その木のお風呂に入らせてもらう。

夕食後は、たまたま、ヒュッテに来ておられた、山岳専門の旅行社の方のスライドを見せていただけるということで、2 時間余りにわたって、ヒマラヤからカラコルム、ヨーロッパアルプス等世界の山旅を満喫することができた。

翌朝は、快晴の空の下、大台山系からのご来光、そして眼前の山並みにかゝる雲海とすばらしい山の朝を迎えることができた。

長時間のスケジュールを考えて、朝食を済ませると、6 時 15 分には、ヒュッテを出発した。15 分余りで、3 叉路に出、我々は、大普賢岳への道を進む。吹き出る汗に朝のさわやかな風が心地よい。

途中の切り立った岩壁の下には、指弾窟、朝日窟、笙ノ窟等の行場があった。

石の鼻と呼ばれる小ピークからは、快晴の空の下、幾重にも連なる山々、そしてその山の向こうには、雲海が、その雄大な展望にしばし時の流れを忘れてしまう。

小普賢岳を巻いて、大普賢岳(3 等△1,779.9 m)の頂上には、8 時 20 分に着いた。ここで、ゆっくりとコーヒータイトとする。山登りの楽しさを実感できる時間である。頂上から北西に目を向けると、山上ガ岳の頂上が見え、宿坊が確認できた。南の尾根道を目で辿っていくと、弥山に行き着く。

コーヒートを飲み終わった頃、10 名程の方がヒュッテの方から上ってこられたので、頂上を明け渡すこととする。

ここからは、大峰奥駆道を南下して、国見岳、七曜岳を目指すこととなる。

熊笹の道、岩場と変化に富んだ尾根道を 1 時間余りも行くも、次の目的地である国見岳にいきつかず、見過ごしてしまったのかかと思っていると、突然、国見岳と書かれたところででた。おかしいと思いつつ、さらに、15 分も歩くと、七曜岳に到着した。どう考えても、地図上の国見岳(・1,655 m)の位置と標識のあったところとは違うように思った。

七曜岳は、また展望の利くところで、いま登ってきた、大普賢岳、小普賢岳、石ノ鼻の峰々が鋸状に並んでいるのが確認できた。

七曜岳頂上を後にして、無双洞に向かうことにする。急な道を行くように、標高差で 500 m あまりも下ることになる。出発してから 5 時間余り、足が思うように動かず、すべりおちる感じで、いい加減下りにうんざりした頃ようやく無双洞に到着した。(11:25 着)

目の前の水簾の滝は、想像を超えたすばらしい滝で、段差はあるものの、トータルの落差は相当あり、水量も多く壮観であった。また、横の岩の間からは、豊富な水が流れてきていた。(昼食)

昼食後、再び重い足を引きずるように、滝をわたり、枯れた沢、そして再び 200 m の急登を鎖の助けを借りて登りきると、垂直の穴がポッカリと口を開けている底無井戸にでた。そこからは、平坦な道がヒュッテまで続いていた。(13:30 ヒュッテ着)

帰路は、上北山温泉に立ち寄って、山の汗を流した。

【参加者】 井戸澄夫, 竹田 勉, 岩野誠司, 山元誠一

(コースタイム)

- 10/1 京都 12:00 発 — 和佐又山ヒュッテ 16:20 着  
2 ヒュッテ (6:15) — 和佐又山分かれ (6:35) — 朝日窟 (7:10 - 20) — 石ノ鼻 (7:40) — 大普賢岳△1,779.9 m (8:20 - 8:40) — 国見岳・1,655 m (10:00) — 七曜岳 1,584 m (10:20 - 10:35) — 無双洞昼食 (11:25 - 12:00) — 底無井戸 (12:30 - 12:40) — 和佐又山分かれ (13:15) — ヒュッテ (13:30)

【第2012回例会】

## 大原周辺の山と（金比羅山の岩場）

### — 姫路播磨支部の山仲間と交流会 —

大 倉 寛治郎  
山 岡 昭 弘

毎年恒例となった交流会も今年で5回目をむかえる。回を重ねてくると新しい仲間ができ、ユニークな山行の話が聴け、たいへん参考になる。

姫路からは1日に8名、2日朝に2名の計10名が、そして京交からは7名が参加した。

10月1日(土)は案内のとおり、朝から大原金比羅山の岩場での登攀班と静原キャンプ場横にある「ホルンの山小屋」での設営班に別れての行動となった。

登攀班は私(山岡)がリポート。

午前9時20分に北大路駅前に集合、吉田さんの車で金比羅山へと向かう。登攀班の参加者は、吉田さん、西尾さんと私の3名。金比羅山絵馬堂奥の駐車場に午前10時頃到着、準備を整えて岩場へと出発する。MK下部の岩場でアンザイレンして、ウォーミングアップを兼ねて登り出す。MK下部に到着、先客が何名かいたので、じゃまにならないようにクラックの右のいちばん簡単なルートを登ることにする。(T吉田, M西尾, L山岡) Mの上部でピッチを切り、Kも右のいちばん簡単なルートを登る。(T山岡, M西尾, L吉田) 下から見ると簡単そうだが、実際に登ってみると以外と難しい。岩とおしゃべりをしながら、ぞうきんではなくゆかたを縫いながら登る。MKを2本登った後、昼食をとる。ホワイトチムニーは満員だったので、Y懸裏の北尾根に移る。北尾根を1本登ったところで(T西尾, M山岡, L吉田)時間切れ、ビビリフェ

イスに未練を残しながら下山し、本日の宴会会場である「ホルンの山小屋」へと向かう。午後5時前であった。

ここからは大倉さんがレポート。

設営班は午前10時30分に壬生に集合、装備を積み込み、食料の買い出しを行い、「ホルンの山小屋」へと向かう。そして、今夜の宴会の準備を行いながら参加者の到着を待つこととなる。午後5時過ぎに登攀班3名が到着、午後6時過ぎには姫路の仲間も次々と到着し、宴会が始まる。ジンギスカン、昼から何時間も煮込んだおでんとスジの煮込み、野菜サラダ、缶ビール、酒、ワイン、etc. といただき、宴会→懇親会も盛り上がり、久しく忘れていた山の歌も出て懐かしく、夜の更けるのも忘れて歌う。

10月2日(日)は、予定では山歩きと登攀に別れる事になっていたが、登攀をする人がほとんどで、やむなく山歩きは中止とした。道案内等お願いしていた奥村さん、中止の連絡が遅れてごめいわくをおかけし申し訳ありませんでした。

MKとY懸周りで登攀を楽しみ、「ホルンの山小屋」から、津田さん、田村さんの出前してくれた昼食をとり、午後3時に「ホルンの山小屋」に戻り、次回、来年の再会を約束して解散した。

【参加者】 津田 実、吉田 武、大倉寛治郎F2、田村正弘、山岡昭弘、西尾直樹、他10名

### 【第2013回例会】

## 本白根山、笠ヶ岳（志賀）根子岳、四阿山

梅津 吉田 武

10/3 名神、中央、長野道と各自動車道を乗継ぎ須坂ICについたのは4日午前2時頃になった。小雨の中を高山村から万座峠を越えて万座温泉管理事務所の軒下にテントを張って仮眠する。

AM6時に起床して朝食を済ませて直ぐ本白根山登山口まで走る。逢ノ峰のピークを廻り込むように林道がついていてその先に本白峰スキー場があった。リフト横に駐車してリフト沿にルートがついている道標に従ってガスの中を鏡池と本白根山の鞍部に向って歩く、50分程で鞍部についた。先づ鏡池に行く。イオウの臭うルートを20分も歩くと鏡池についた。神秘的な池でガスの中に湖面を見せていた。元の鞍部に戻って遊歩道最高峰と書いた道標に従って登っていくと三角点の方向に踏跡があったので遊歩道に別れを告げ笹原の中を10分程歩くと本白根山(2,164.8m)三等三角点についた。ガスの中なので写真を写して早々に往路を下山した。道中多くの駒草が植えられていた。この花が咲く時にもう一度訪ずれたいと思った。

車に帰って次の山、笠ヶ岳に向う。志賀、草津ルートを熊ノ湯スキー場より少し北に行った所に山田牧場に行く林道があった。分岐から20分程で笠ヶ岳登山口と書いた道標を見つけた。

早速軽装備になって登り出す。急登急登の連続で最後に岩登りをして頂上についた。笠ヶ岳(2,075.8m)三等三角点。

今までスキーで志賀高原の横手山頂より見ていたが一度登ってみたい山であった。往路を下山して玉味温泉で汗を流して管平高原の峰ノ原スキー場にテントを張った。水もトイレもあって快適なテント地だ。

10/5 AM 6時起床して7時半出発、管平にある東京都渋谷区青年センターの駐車場に車を止めて登り始める。ゴルフ場と牧場(バカデカイ)の間をゆるやかにルートはついているツアースキー用の看板が等間隔にあってわかりやすいルートである。Na 20~Na 19まで約30分かかったがあとは比較的早くNa 5-2まで来た。ここより三角点に踏跡もしっかりついていて三角点まで5分程である。根子岳一等三角点(2,127.9m)。

美しい顔をしていた。根子岳最高点より100m程低く700m程手前であった。本コースに戻りNa 5-2より頂上までゆっくり歩いて25分程であった。広大な管平を眼下に東にはこれから登る四阿山がどっしりと構えている。笹平の名のように笹が一面ある鞍部まで130m下って240m登り返すルートで12時には四阿山につけると思ったが8mmビデオとカメラの道草で40分程おくれて1時前に頂上についた(2,354m)の最高点を通過して5分程で三等三角点四阿山(2,332.9m)についた。ここで昼食をした。展望は良浅間山や白根山が見え、下の方には田代池や管平スキー場、そして広大な牧場が見渡せた。

下山路は三角点(1,917.2m)を通過して牧場を横切ってゴルフ場の上部に出ようと思ったが、これが失敗、バカデカイ牧場のため縦横無尽に地道があって地図を見てもわかりづらい。

1時間位アルバイトをしてやっと牧場とゴルフ場のルートに出た。アルバイトで遅くなったので今日も峰ノ原スキー場でテントを張る事にした。今日はスキー場に管理人がおられたのでテントを張る許可を願いにいくとOKをもらっておまけにマツタケももらった。今日はすき焼をする予定だったので二重にうれしかった。

10/6 AM 6時起床して8時出発、今日は京都までストレートで帰るつもりであったが上田市から武石村に入った所で気が変わり美ヶ原の王ヶ頭三等三角点に行く事にした。武石村の看板に従って美ヶ原山本小屋についた。王ヶ頭まで55分程かかるが牧場の牛を見ながらゆっくりと王ヶ頭についた。

北アルプスから後立山連峰、御岳そして中央アルプスから南アルプスそして富士山と360°見渡せる。昨日登った根子岳と四阿山もきれいに見えた。頂上レストハウスで昼食をして車に戻る。諏訪の片倉館に入浴して自宅に帰ったのは午後9時であった。

【参加者】 吉田 武, 他5名



【個人山行】

南ア 塩 見 岳 9/2~9/4

烏丸 台 川 敦 美

同じ職場のKさんグループが行かれるとの事をお願いして金魚の糞よろしく<sup>うしろ</sup>後にくっついて頂上二等三角点を踏んできました。

赤く錆びたトタン屋根の山小屋、木の根が張り出したぬかるみの多い縦走路、木馬道の様な梯子、林を抜けると背の高いハイマツ、頂上少し手前よりガレ場となりピークへ。

先輩諸氏に引っぱって頂きつつ歩いた南アルプスの思い出が昨日の様に感じられます。

下界は水不足のニュースが？この山界は木々の緑も青々と路端の苔も水が滴ってます。雰囲気最高の山ですが板の間の床に寝袋、すきま風、入口の扉のガタピシの音、トタン屋根を叩く雨音、葉が切れたら寝てられませんよネーハーサン、寒さが強くてホカロンが必要な贅沢な感じを味わいました。

駐車場から三伏小屋まで三時間とは便利になった豊口ルート（今回我々のLが仕入れた情報源は梅津営業所京交山岳部員のHさんだそうです）これからはこのコースの入山者は増えそうですが三伏峠より南の地域は噂によると小屋が二つ程使えないとの事、早く修復された話を聞きたいものです。

……で報告は終わりですが年々足の衰えを感じてる近頃です。今回はまあ無事に歩けましたが来年はいかがになりますか、早いうちに歩いてない所を行っておかなくてはと思いつつ、歩くのが面倒くさくなって机の上に地図を広げ夢の中で山へ登れば（誰かが言ってた話）年齢に関係なく続けられそうです。

以上

【個人山行】

鷲羽岳，黒岳（水晶岳），黒部五郎岳

洛西 竹 井 章

前回部報に出しました聖岳，光岳につづき8月26日，27日に悪沢岳，赤石岳に登りました。百名山残り三山になりました。来年に残しておこうと思っていましたが休暇がとれましたので友人と二人で計画を致しました。今回の思い出は今迄の登山の中で一番ハードなスケジュールでした。と申しますのは9月30日勤務終了後，洛西出発，10月1日早朝より新穂高温泉より鏡平，双六，三ツ又蓮華を経て，鷲羽岳，水晶岳をその日に制覇し，三ツ又蓮華小屋に16時着，小屋に泊。

10月2日又早朝より，僕には100名山最後の山黒部五郎岳に，北アルプス全望の中，又二日間

快適な晴天に恵まれ黒部五郎岳に向いました。この日も天候が良いので頂上で乾杯後写真等を撮り、40分程休けいし、下山。このまま新穂高迄下山するのはおしい様な気がしまして、10月3日は予備日で友人が笠ヶ岳へ登っていませんので僕も笠ヶ岳の小屋で泊る事にし、笠ヶ岳へ向い無事小屋に16時20分到着、小屋に泊り10月3日小屋を後に笠新道を下山、あと40程で林道に出る場所で僕にとってははずかしい話で予想外の事故に成りました。夜露にぬれた木の根に乗りスベリ落ち左手をつき、尾骶骨をつき、しばらく動けず左手を（タオルを水筒の水にぬらし）巻き、下山新穂高温泉に着いた時にはかなり左手がはれているのに気づき、すぐ車を走らせ高山の接骨医で診察していただき京都に向いました。翌日京都の病院でレントゲンの結果骨折と決り4週間の休務となり、でも左手だけですみ、命にも別なく不幸中の幸いでした。はずかしい話を公表せねばならない事になりましたが、僕には100名山最後の登山の帰りに一生忘れない思い出の登山となりました。登山される皆様はだいじょうぶと思いますが呉々も気には気をつけて登山される事を望み一筆書かせていただきました。

# 例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
2010	無雪期指導員研修および検定会 鈴鹿藤内壁	9月10日 ～11日	晴れ	山岡 昭弘	大倉寛治郎 方山 宗子 西尾 直樹	(別稿詳報)
2011	大峰 大普賢岳 国見岳 七曜岳	10月1日 ～2日	晴れ	井戸 澄夫	竹田 勉 山元 誠一 岩野 誠司	(別稿詳報)
2012	大原周辺の山と 金比羅山の岩場	10月1日 ～2日	晴れ	大倉寛治郎 吉田 武	津田 実 田村 正弘 山岡 昭弘 西尾 直樹 大倉 (F2)	(別稿詳報)
2013	本白根山, 笠ヶ岳 根子岳, 四阿山	10月3日 ～6日		吉田 武	他5名	(別稿詳報)
2014	南木曾岳 擦古木岳(I△)	10月8日 ～9日		岡田 茂久	渡辺 智生 出海 洋三 和田 良一 方山 宗子	(次号報告)

# 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
南ア. 塩見岳	9月2日 ～4日		台川 敦美	(別稿詳報)
花背 天狗杉 Ⅲ等△837 m	9月10日		山元 誠一 ほか 1名	峠下に自転車を置き, 旧花背峠までかけ足 で登り, そこからブッシュの中を泳いで天 狗杉の三角点に辿りついた。 天狗杉 登り 40分 下り 30分 旧花背峠はとても静かであった。
鷲羽岳, 黒岳(水晶 岳) 黒部五郎岳	10月1日 ～3日		竹井 章	(別稿詳報)
高清水山 独標 1,168 m	9月23日		坂井他 6名	} 京都山の会 山崎氏と同行 山梨の山崎富雄氏の中根山荘 2泊  } 五ヶ山の秋祭観光 こきりこ節, 麦屋節, 笠踊等鑑賞し, 9 月26日4時半帰洛  } 再調査, 撮影
マルツンボリ山 3等△1,237 m	9月24日		〃	
大笠山 2等△1,822 m	9月25日		坂井他 2名	
前笈山 3等△1,532 m	9月25日			
桑谷山 3等△925 m	10月1日		坂井他 2名	
峰床山 2等△970m	10月6日		〃	

# 雑 報

## △△△ 10月の集会

日 時 10月11日(火) PM 6:30～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 (本局) 岡田, 三橋, 和田, 方山, 山元  
(OB) 奥村, (梅津) 吉田 以上7名  
内 容 例会報告ほか

## △△△ 9月の企画運営委員会

日 時 9月20日(火) PM 6:30～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 岡田, 鷺見, 大槻, 三橋, 吉田, 大倉, 井戸, 奥村, 和田  
内 容 例会, 岳山報告(府民登山大会, 清掃登山, 京都トレイルほか)  
45周年記念行事(記念登山, 部報特集号ほか)

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

10月分 趣味の登山, 京都山岳, 木雞, 北山, 山友, 青嶺, 近畿山行, 愛宕ニュース

## ◎ 「京都トレイル」平成6年度第3回トレッキング会のお知らせ

日 時 平成6年11月13日(日)  
午前9時～10時  
受 付 北白川小学校(左京区北白川別当町)  
コ ー ス 北白川仕伏町～瓜生山～石鳥居～ケーブル比叡駅  
距 離 6.8 km  
案 内 去年の11月に催しましたアンコールコースです。  
適当な距離と高度差です。  
ご家族連れで多数ご参加下さい。  
なお, 記念品と, ケーブル運賃の割引があります。  
主 催 京都一周トレイル会  
運 営 京都府山岳連盟京都トレイル委員会

◎ 45周年を記念して部報の特集号の発行を予定しています。

テーマ「私の山」 字数 1200字程度まで（部報約1頁）  
原稿締め切り 平成7年1月末、部報係まで

内容は問いません。楽しかった山行きの思い出、自分の山への思い。登山について考えること等、部員諸氏の投稿をお待ちします。詳細は企画委員まで問い合わせ下さい。

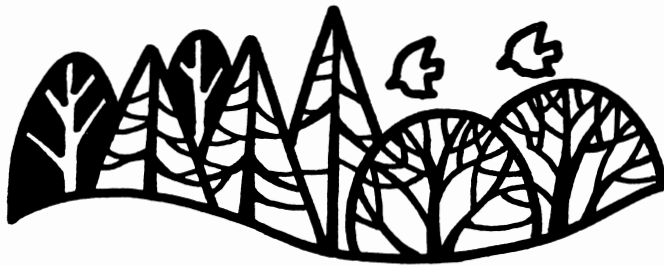
◎ 45周年記念野外集会

12月17日（土）～18日（日） 詳細は部報12月号。  
納山祭と兼ねて保津峡落合で豪華パーティを行います。御期待下さい。  
担当 鷺見（CL）大倉 大槻

◎ 10月号 部報訂正のお願い

10月号 P1の例会番号を次のように訂正いたします。

- ・2012回 万座山と岩管山を第2013回に
- ・2013回 南木曾岳、兀岳、擦古木岳を第2014回に
- ・2014回 大船山を第2015回に、それぞれ訂正いたします。



帆 布 ・ 濾 布  
 テ ン ト ・ シ ー ト  
 雨 合 羽

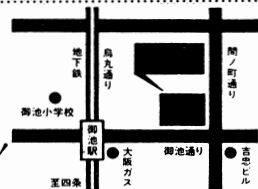
## 木村工業有限会社

京都市中京区ミズ車庫前  
 TEL 801-5331 (代)  
 西大路営業所  
 下京区西大路七条下ル  
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、  
 注目のスポーツ  
 カヌーをはじめ、  
 ひと味違う充実の  
 品揃えは必見のもの!!



## ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
 ☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US製出品  
ポータブルカフト用品

**Mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548  
営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ

鮮しめめの齒軋……………⑨

往年の名車「いすゞ117クーペ」もメーターが二廻りし、五速フロアシフト・ノンパワステに不満たらたら妻君に負けて、軽四に乗り換えた主人が堀川通を50kmで走っていた。低速？にじれた後続のスカGが追いつきざま、助手席のギャルが唾を吐きかけていった。四条堀川交叉点の近く白バイに速度オーバーで捕まったくだんのスカGの後に停車した主人は、素知らぬ顔で自販機でジュースを求め車に戻っていった。

制作 (株) 北斗プリント社  
〇七五―七九一―六一二五

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

 小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区あけす不明門通六条下る西側  
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 代

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

**サンコークラフト**

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
TEL (075) 771-3442

平成6年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

**京交山岳部**